



Girl's Expo with Science Ethics を実施しました

2月6日（日）、アクリエひめじにて Girl's Expo with Science Ethics を開催しました。コロナウイルス感染拡大防止のため、小中学生・本校以外の高校生は、ポスター展示による参加となり、保護者の参加も中止となりました。

(1) 開会行事（大ホール）

学校長挨拶の後、東京大学名誉教授の上野千鶴子先生によるビデオメッセージの上映、早稲田大学名誉教授の木村利人先生によるメッセージの代読が行われました。



(2) 基調講演①「ほんとうの幸せを生む ほんとうの賢さを」（大ホール）

午前の基調講演では、本会場とJT 生命誌研究館名誉館長の中村桂子先生を Zoom で接続し、リモート形式でご講演いただきました。

(3) ポスター発表、大学・企業ブース展示、サイエンスカフェ（展示場）

10:45～13:30 まで、ポスター発表を行いました。同時並行で、奈良女子大学の研究紹介、理化学研究所の企業紹介を行う「大学・企業ブース展示」、および、大学院生や大学生と自由に話せる「サイエンスカフェ」も、同会場内で行いました。



(4) 基調講演②「先端的研究を育む生命倫理 ニューロエソロジーからバイオエシックスへ」（大ホール）

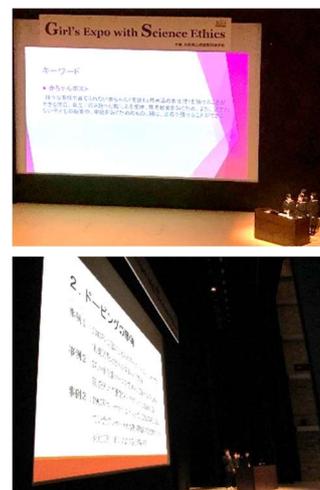
午後の基調講演では、本会場と上智大学名誉教授の青木清先生を Zoom で接続し、リモート形式でご講演いただきました。

(5) 科学倫理研究の口頭発表 (大ホール)

4つの研究班が、科学倫理に関する研究の口頭発表を行いました。発表テーマは以下の通りです。

- ・ こうのとりのゆりかごの必要性
- ・ ヒトクローンの作成に反対するが、医療目的の技術の応用は容認する
- ・ AI を用いた著名人の作品の再現
- ・ ドーピングについて正しい知識を身に付けて反対しよう

また、発表後に京都府立医科大学大学院主任教授の瀬戸山晃一先生から講評を頂きました。



～ 生徒の感想 (一部抜粋) ～

(基調講演①「ほんとうの幸せを生む ほんとうの賢さを」)

- ・ 私は無意識にヒトが特別であると思っていたと気づきました。自然から離れた見方も大切かもしれませんが、今後は、自然の中からの視点を大事にしていきたいと改めて感じました。ヒトは知性があるだけで強いわけではなく、だからこそ自然の中で協調性を持ち、自然に支えられながら過ごしていることをもっと意識しようと思います。

(ポスター発表)

- ・ 今まで決まった時間で、決まった原稿を読んで、決まった時間内で質疑応答をするというものでしたが、決まってない時間で発表をし、無制限に質疑応答をする、というのは初めての経験でした。決まった時間では聞ききれない質疑応答などもあったと思うので、このような方式で発表出来て良かったです。

(大学・企業ブース)

- ・ 技術が発展している今の時代でも、まだまだ私たちが生きやすい世の中を作ることが可能で、そのような実験を担っておられる人がどれだけの知識量とアイデアをもって、どれだけの期間をかけて研究をされているかを、改めて知ることができました。

(基調講演②「先端的研究を育む生命倫理 ニューロエソロジーからバイオエシックスへ」)

- ・ 今の人のだけでなく、次の世代の人のことも考えて行動していかなければならないと思いました。今のことを考えて、先のことは誰かが何とかしてくれるとか、何とかなるだろうとか、浅い考えで行動してしまわないように、学んだことを活かしていきたいです。

(ポスター発表)

- ・ 全ての口頭発表において、自分も同じ意見だなと思うところもあれば、自分はこう思うなと違った意見を持つところもあって、とても興味深かったです。聞いたことはあっても深く考えたことのないテーマや、人による感じ方が違うために法律の整備も難しそうなテーマばかりで、知っているつもりでも、全然よく知らないんだなということを感じました。この口頭発表をきっかけによく調べてみようと思います。

○ Girl's Expo with Science Ethicsの様子は、3月15日発行のCOML (認定NPO法人 ささえあい 医療人権センター) の会報誌にも掲載されました (裏面記事です)。